

平成28年10月

保護者の皆様

南アルプス市立櫛形西小学校
校長 野中 るみ子

平成28年度 前期学校評価の結果について

仲秋の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。9月24日の運動会におきましては、雨天用のプログラム変更によって、忙しい1日となりましたが、子どもたちは一生懸命練習してきた成果を発揮することができました。皆様のご声援に感謝申し上げます。

さて、今年度の前期学校評価の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

【1】評価基準

全体傾向を把握するため、AB評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断しました。また、CD評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断しました。

(A: そう思う B: だいたい思う C: あまり思わない D: そう思わない E: わからない)

【2】全体的な傾向

教職員による自己評価、児童・保護者によるアンケートを通じて、3者ともに、ほとんどの項目でAB評価の合計が80%を超え、肯定的な評価がされました。一方、CD評価の合計が20%を超えたものは、家庭での児童の実態に対する保護者の評価の2項目でした。



学校生活全般についての調査項目(児童:「学校は楽しかった。」 保護者:「子どもは楽しく学校へ行っていた。')では、ともにAB評価の合計が90%を超えました。よって現在の本校は、概ね『満足できる状況』にあると判断できます。

【3】個別の分析

(1) よく考え、進んで学ぶ子どもの育成【確かな学力】

- 学力 = ①基礎的・基本的な知識・技能の習得
②思考力・判断力・表現力
③学習意欲・態度

教職員による自己評価においては、例年、前期評価は概ね低い傾向にありますが、平成28年度は、前年度と比較して大きく数値を伸ばしました。特に、「基礎的な知識・技能の習得」と、「自ら学ぶ意欲を高める学習指導」については、大





幅な向上が見られました。これらのことは、放課後の個別指導の実施や、昨年度より実施している全校一斉の漢字や計算テストを受けさせるための準備や、結果に基づいた事後指導などによって、指導の充実が図られたためと考えられます。

また本校では、思考力・判断力・表現力の育成のために、校内研究会や先進校での学びを繰り返し行ってきています。特に「聞き方名人・話し方名人」と銘打ち、全ての学習活動で行っている横断的な指導は、大きな成果につながっていると考えられます。そういった本校の良き伝統を今後も絶やさぬように、研修を重ねていく必要があります。

しかし、教師にとって「わかる授業」「楽しい授業」を教え子に施すことは、職務の根幹をなすべきものであり、その意味で他の項目と比べて【A】評価は大きく落ち込んでいます。我々教師にとって【A】評価はゴールではなく、次なる【B】評価の始まりととらえています。今後も校内研究を通して個々の教師の力量を高めたり、本校の教育課程を見直したりするなどして、一層真摯に取り組んでいきます。

さらに、保護者アンケートでは、家庭で落ち着いて学習に取り組めていない状況が浮き彫りとなりました。「落ち着いて」とは、テレビを消したり、ゲームや音楽を遠ざけたりするなどして、集中して考えたり覚えたりできる静かな環境の中で学習に取り組むことを期待しています。今後も継続して児童に家庭学習の方法について具体的に指導したり、保護者会などにおいて共通理解を図ったりするなどして、家庭と連携し、学ぶ目的や学習の仕方を指導してまいります。

(2) 思いやりの心を持ち、助け合う子どもの育成【豊かな心】

※いじめに対する取り組みについて

いじめを防ぐことは喫緊の教育課題であり、本校でも最重要課題としてとらえ、年度初めに「いじめ防止のための基本方針」を全職員で確認し、その上で児童一人一人と密接に関わり、教職員間で活発な情報交換を行ってきています。

保護者の皆様には、PTA総会にて校長自らが説明を行い、いじめの未然防止と早期発見・適切な対処など、全ての項目について共通理解を図ると同時に、学校のいじめに対する姿勢を示しました。これらの取組は全ての保護者の皆様に理解され、肯定的な評価を頂きました(前年度98%)。



児童アンケートでは、98%の児童(前年度95%)が「友達にやさしくできた」と答えた一方で、8%の児童(前年度14%)が「友達にいじわるやいやなことを繰り返しされた」と回答しました。それらの児童に対しては、担任が事実確認と指導を行い、当事者間で相互に理解し合えたことを確認できたので、いじめに発展するものではないと判断しています。

昨年度のアンケート結果より数値は向上しているものの、今後も児童の言葉や表情などに注意をそらすことなく、望ましい人間関係作りに取り組んでいかなければならないと考えます。

「こころ」を育てるための様々な教育活動については、どれも高い評価を得ました。道徳教育は、道徳の時間を中心に教育活動全体を通して実践していますが、特に学校を開放して道徳

授業を公開し、授業を参観した来校者から頂いた感想をもとに反省会を持つなどして、さらなる内容の充実を図っています。また、講師の招請や体験活動、小笠原流礼法とも関わらせたりしながら、児童の道徳的実践力の向上を図っています。

児童会活動は小規模校の特色を生かし、縦割りで学年を超えた活動が展開できています。

読書活動は、授業での取組の他に、委員会の常時活動、異学年によるペア読書、読書ボランティアの方々や教職員による読み聞かせなど、様々な取り組みを通して児童の興味関心が高められていると考え



られます。

自然体験活動については、学校内外で充実した活動ができています。地域の豊かな自然環境と市バスの効率的な活用、そして何より、地域の皆様が講師やお手伝いを引き受け、来校して下さることが、学習を支えています。今後もそれらを大切にしていきたいと考えます。

あいさつについては、地域での活動も含め、従来から重点的に取り組んできており、高い評価でした。今後も児童会としての取組だけでなく、P

TAや地域においても活動を進めていきます。

携帯電話やスマートフォン(以下、携帯電話等)の保有率は、68%に達しています(昨年度40%)。家庭生活の多様化により、保有率は年々増加傾向にあります。携帯電話等の使い方の約束が決められている児童は、82%まで上昇しました(昨年度70%)。携帯電話等を利用した犯罪やトラブルに巻き込まれないためにも、授業で取り上げたり保護者会で説明したりする啓発活動が功を奏したと考えられますが、今後もすべてのご家庭において、親子間で保持するときの約束を確実に決めて頂けるよう、働きかけを続けていきます。



(3) じょうぶな体でがんばりぬく子どもの育成【健やかな身体】

全体として高い評価でした。



1学期末をもって、55年間の歴史の幕を下ろした本校給食でしたが、栄養職員と調理員による心のこもった給食の提供と、命を頂くことへの感謝の気持ちを育てる担任の指導が車の両輪の機能を果たしたと考えられます。また、給食試食会を2回開催するなどして保護者の皆様への食教育の啓発も図ってきました。しかし、食習慣(特に偏食)は、家庭生活との関連が深く個人差が大きいのが現状です。これからも懇談会や試食会など、様々な場面で家庭とともに考える機会を設けていきたいと思ひます。

安全教育の充実については、自分の身の安全を確保するための思考力や判断力が身につけられるように、学校教育全体を通して指導しています。たとえば、短時間で行われる学校集会を利用して、狭い間口に殺到して避難する場合と、整然と並んで避難する場合とでは、後者の方が短時間で済むといった実演を取り入れるなど、常に主体的に命を守る指導を行ってきました。また、11月には、南アルプス市

消防本部と協同し、煙道体験の実施を計画しています。

さらに、本年度実施した「大地震発生予想時の、保護者への児童引き渡し訓練」の実施後においては、振り返り内容を基に、より確実でスムーズな児童の引き渡し方法について議論が交わされ、来年度の原案が作成し直されるなど、人災は絶対に起こさないという危機意識を常にもち続けています。今後も地域や行政とも協力しながら児童の安全確保に努めていく所存です。

(4) 家庭や地域社会と連携し、信頼される学校を作る【信頼される学校づくり】

比較的高い評価を得ることができました。

地域の教育力や人材活用については、授業でのボランティア、PTA活動や登下校の児童見守り活動等を通して行われていて、これらについて3者とも大変満足していることがわかります。今後もこの活動が継続できるように保護者の皆様や地域の方々にご協力をお願いしていきたいと思います。

そのためには、学校便り等を通じて学校の教育活動について積極的に情報発信し理解と協力を呼びかけていくと同時に、保護者の皆様や地域の方々からのご意見やご要望に対しては、真摯に耳を傾け、実現可能なことについては、早く、誠実に実行していかうとする学校の姿勢も大切にしていきます。



また、昨年度より、夏季休業中を使い職員作業を行っています。この2年間を通じて、校舎外のすべての遊具、運動施設のサビ落とし、サビ止め塗り、ペンキ塗りを行いました。慣れない作業ではありますが、職員自らの出労も、信頼される学校づくりに一役買っていただければ幸いです。

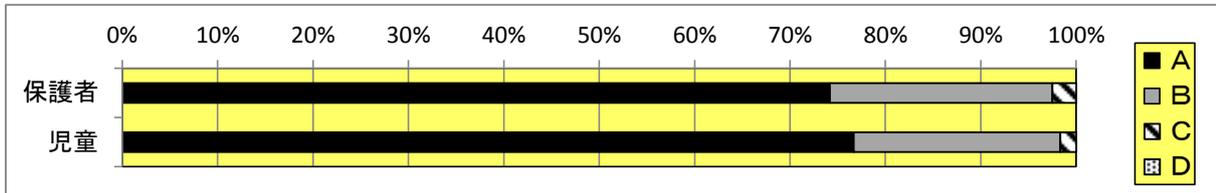
平成28年度 前期 学校評価の結果

【グラフの見方】

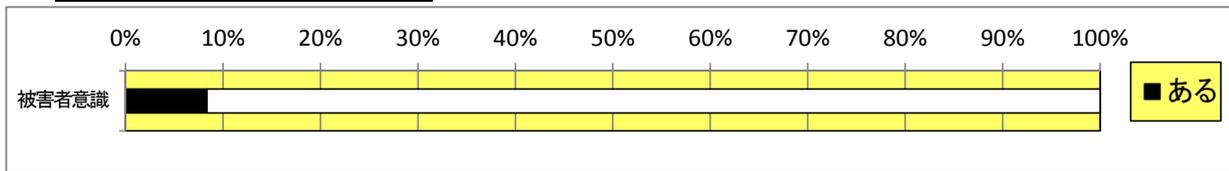
質問 番号	質問対象者	A とてもそうおも	C あまり思わない
	質問内容	B そうおも	D 思わない
		E わからない	

子どもたちの教育の幹となる項目8つをピックアップして表すとともに、皆様から頂いた回答に児童と教職員の回答を加え、3者を比較できるように並べました。(1番、2番を除く。)

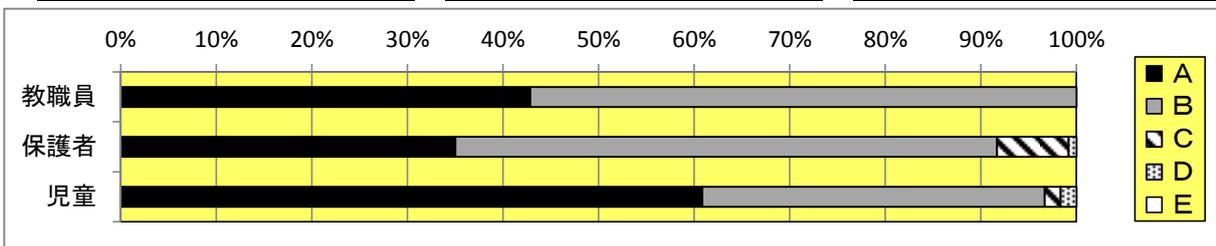
保護者	児童
子どもは、楽しく学校へ行っていた。	学校は楽しかった。



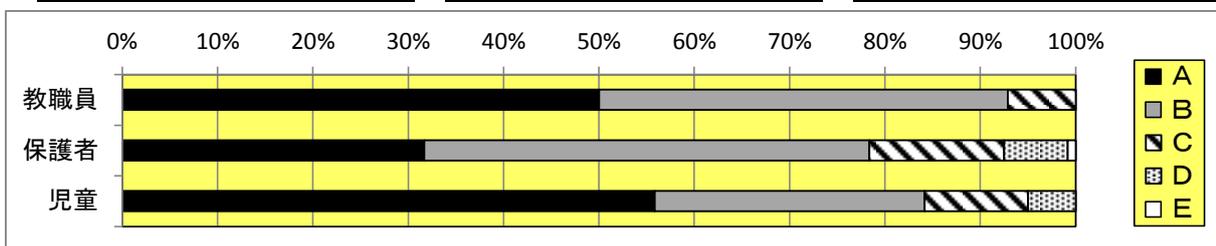
児童 (被害)
あなたは、友達にいじわるや、いやなことを繰り返されたことはありますか。



教職員	保護者	児童
基礎的な知識・技能を習得させることができました。	子どもは、授業の内容を理解できた。	授業(勉強)はわかった。



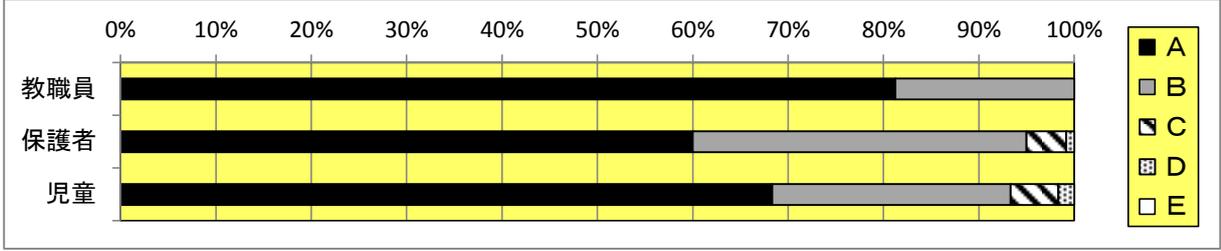
教職員	保護者	児童
家庭と連携しながら、学年に応じた家庭学習の習慣化と充実を図ることができた。	子どもは、毎日宿題などを落ち着いてできた。	毎日、宿題などを落ち着いてできた。



教職員
適切なあいさつの指導に努める
ことができた。

保護者
子どもは、元気のよいあいさつ
をしていた。

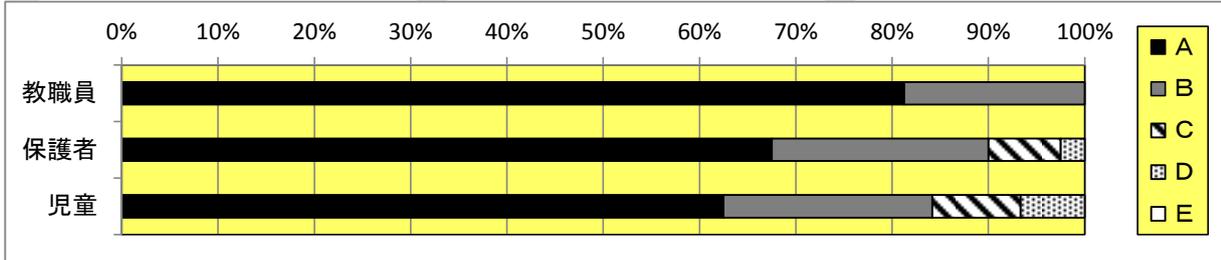
児童
元気のよいあいさつができた。



教職員
楽しく運動し、体力の向上や安全
について実践する力の向上に
努めることができた。

保護者
子どもは、体を動かし元気に遊
べていた。

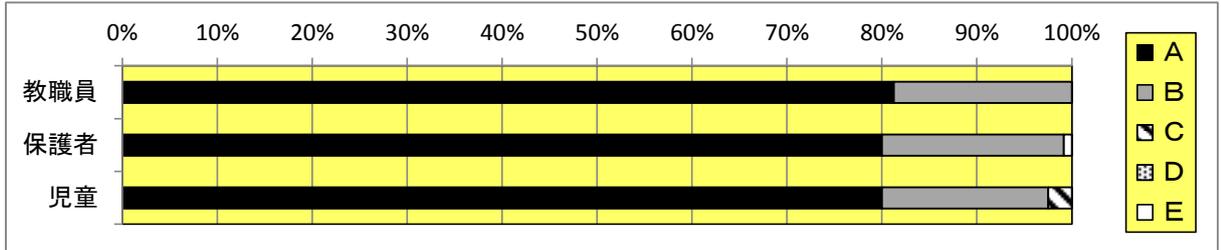
児童
校庭で運動や遊びができた。



教職員
身のまわりの安全・防災につい
ての指導を通して、実践化を図
ることができた。

保護者
学校は、安全・防災について適
切な指導をしていた。

児童
自分の身を守るために、どう行
動すればよいかわかった。



教職員
教育活動に地域の教育力や人材
を生かすことができた。

保護者
学校は、保護者や地域と連携し
た教育活動を進めていた。

児童
地域の人たちから教えてもらっ
た授業は楽しかった。

